【学力向上フロンティア事業中間報告書】

都道府県名	香川県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	詫　間　町　立　松　崎　小　学　校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特学	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	１５
児童数	３３	３１	２３	３２	３４	３５	3	１９１	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

確かな力を身につけ、自ら学ぼうとする子どもの育成
－基礎・基本を重視した学習指導の工夫－

２　研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

○　算数　１年・２年・３年・４年・５年・６年
（系統性が強く個人の理解度に差がでやすい教科であるので習熟度別学習が必要である。）

○　国語　１年・２年・３年・４年・５年・６年
（基礎的な教科なので、とりわけ低学年に時間数を多く配置して学力向上をめざす。）

○　理科　３年・４年・５年・６年
（習熟度だけでなく課題別学習等に対応する少人数学習を取り入れる。）

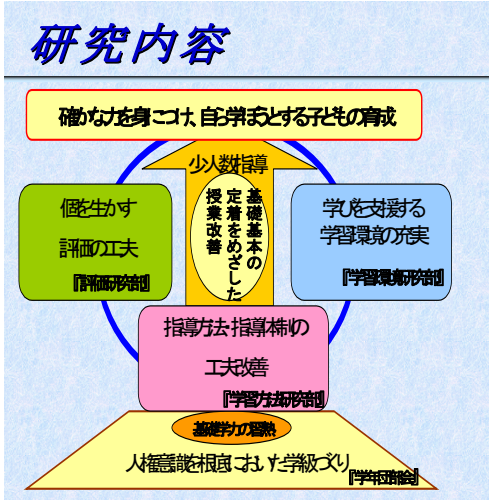
（２）　年次計画

平成14年度

○　テーマ
確かな力を身につけ、自ら学ぼうとする子どもの育成
－基礎・基本を重視した学習指導の工夫－

○　仮説
①　少人数学習を生かせば、基礎・基本の確実な定着をめざした授業改善ができる。
②　人権意識を根底においた学級づくりが、個々の児童に確かな学力を身につけ自ら学ぼうとする子どもを育てるのに重要である。

○　研究内容・方法
①　指導方法・指導体制の工夫改善
・算数を中心とした理解・習熟に応じた指導方法の工夫
・全学年での少人数学習実践のための教師間の協働体制・指導体制等の工夫
②　個を生かす評価の工夫
・評価規準の作成・評価方法の工夫
・指導と評価の一体化
③　学びを支援する学習環境の充実
・教材・教具の工夫・開発
・情報機器を活用した分かる授業づくり
（教育機器の効果的な活用、学習ｿﾌﾄ作成）
④　人権意識を根底においた学級づくり
・全校縦割り班の活用　・障害児を中心とする人権学習の推進
・国際理解教育の推進



平成15年度	○　テーマ　　継続 ○　仮説　　継続 ○　研究内容・方法　　１５年度は以下のように変更 **≪単元構成の工夫≫** ○　単元でねらう基礎・基本の分析や児童につけたい力は何かを明確にする。そして，学習内容や学習形態をどのように構成すると良いか全単元の流れを考えて，１時間ごとの活動略案・評価項目を示した単元の指導計画を作成する。 **≪少人数授業の効果的な学習形態の工夫≫** ○　ＴＴと少人数授業の組み合わせや，習熟度別を中心に様々な形を効果的に取り入れ，個に応じた指導を充実させる。また，少人数に分ける観点や判断基準・手順を明らかにしていく。 **≪個に応じた支援の工夫と評価≫** ○　児童一人一人の興味・関心・学習の速度・理解度・習熟度などに応じて，学習課題や教材教具の工夫をし，基礎・基本の定着をめざす。 ○　客観性のある評価（判断基準の明確化）・評価方法（発達段階に応じた多様な評価）自己評価・外部評価など評価のあり方を探る。 **≪自らの学びを支援する学習環境の充実≫** ○　主体的に課題が発見・解決できるように，学び方を身に付けさせるための手だてや方法の工夫を行う。その際，理解を深めたり広めたりする教材・教具の工夫や開発，自ら課題を発見したり解決したりできるように情報機器や図書の学習環境の整備をする。 ○　放課後学習や家庭学習の充実を図る。 《昨年度の報告》 ①指導方法・指導体制の工夫改善 ・　算数・理科を中心とした理解・習熟に応じた指導方法の工夫 ②個を生かす評価の工夫 ・　判断基準・評価方法の見直しと修正 ③学びを支援する学習環境の充実 ・教材・教具の工夫開発 ・情報機器を活用した分かる授業づくり（教育機器の効果的な活用、学習ｿﾌﾄ作成） ④人権意識を根底においた学級づくり 変更の理由 ・　１４年度の算数の実践研究の積み上げの上に，１５年度は，国語を中心とした実践研究に取り組む。 ・　研究内容を焦点化し，少人数授業の在り方に集中して取り組む。

平成16年度	○　テーマ　　継続 ○　仮説　　継続 ○　研究内容・方法 ①　単元構成の工夫 ・　算数・国語・理科を中心とした少人数授業の充実 ・　３教科の少人数授業の年間指導計画作成 ②　効果的な学習形態の工夫 ・　本校の学習形態の実践とまとめ ・　年間計画への位置づけ ③　個に応じた支援の工夫と評価 ・多様な教材・教具の開発による発展学習や補充学習の充実 ・本校の判断基準・評価方法のまとめ ④　自らの学びを支援する学習環境の充実 ・　学び方を身につけさせるための手だてのまとめ ・　情報機器や図書の学習環境の整備

（３）研究推進体制

①　研究推進委員会を核とする（校長・教頭・少人数加配３名）

②　校内研修を３分野に分け，責任を持って集中的に研究する体制を作る。

〇学習方法研究部　　〇評価方法研究部　〇学習環境研究部

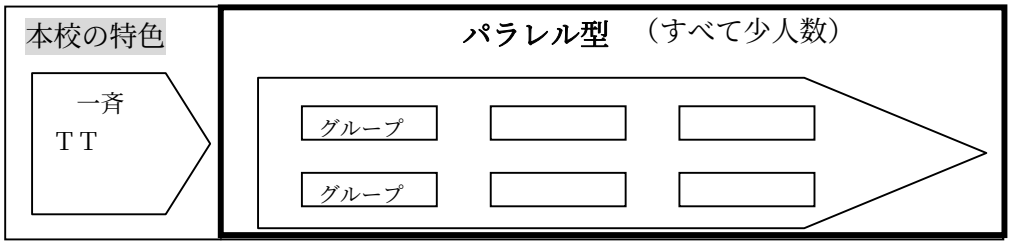
③　低学年団・中学年団・高学年団にそれぞれ１名少人数加配が加わり，学年団経営にも深く関わりながら研究を進める。

Ⅲ　平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

１　研究の成果

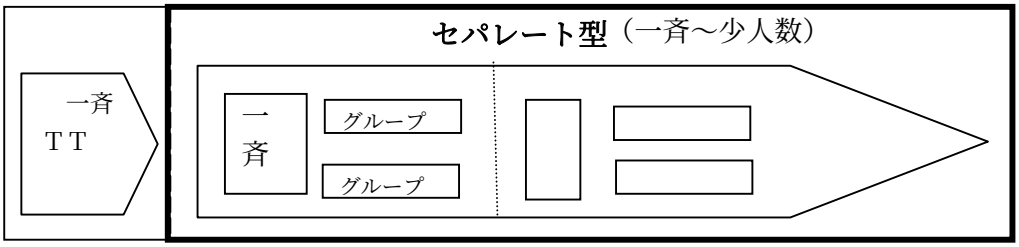
（１）学習内容や子どもの実態に応じてどのような学習形態を構成すればよいか明確になる。

実践例【３年　サーカスのライオン】【５年　森林のおくりもの】.



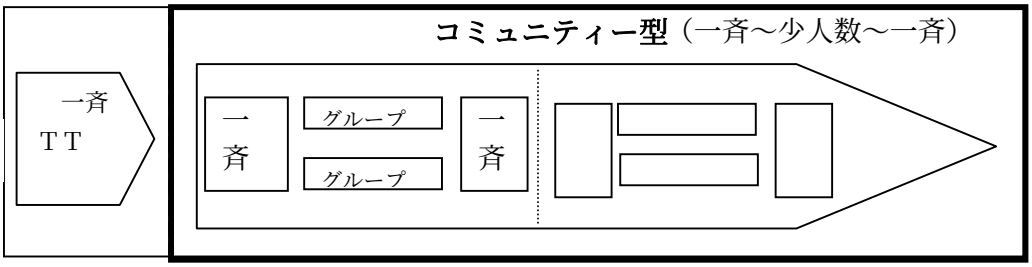
それぞれのグループの学習内容に応じた支援を行いながら，目標達成を目ざす場合

実践例【３年　たし算とひき算】【５年　小数と整数】



定着度・進度・意欲等に差が見られる場合

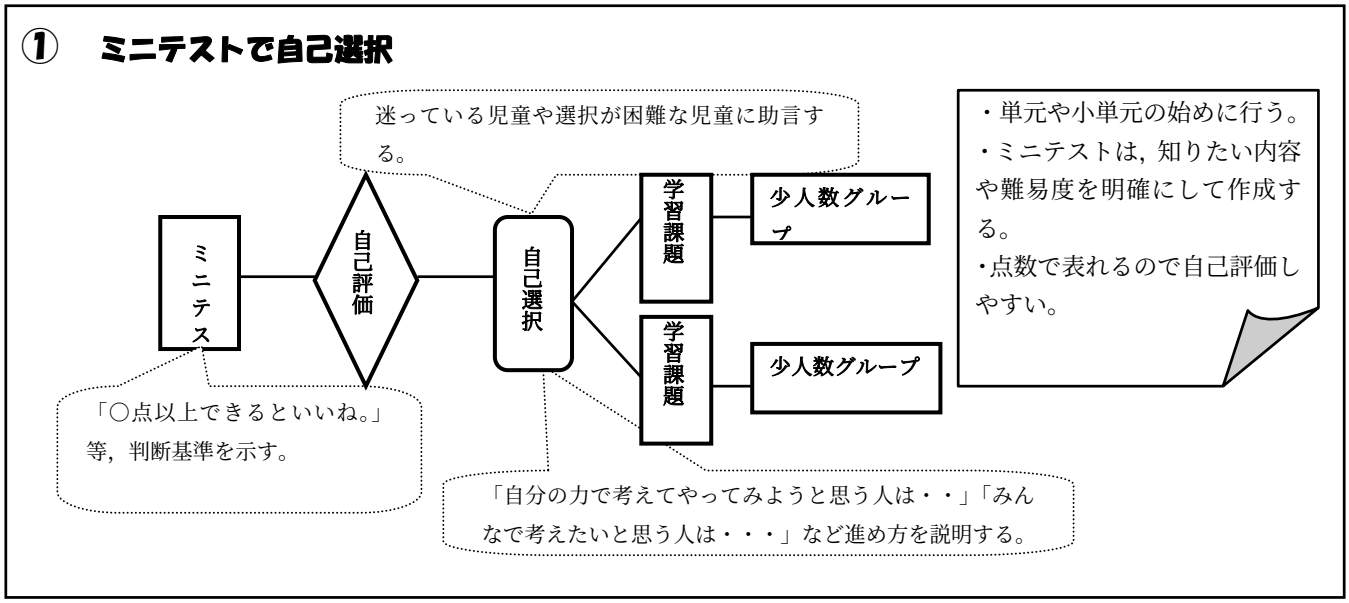
実践例【２年　ビーバーの大工事】【６年　いろいろな立体】

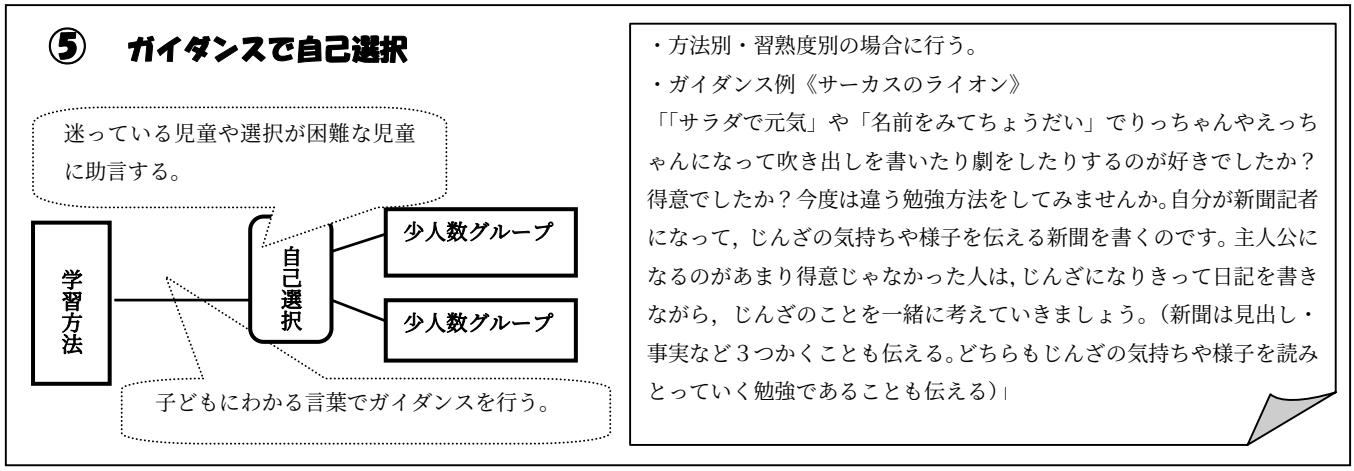


他のグループと学習内容を共有し深めあう場合

① 少人数授業を細かく分類し単元の流れを考えることで，「ここでこんな力をつけたい→こんな内容・方法で→この場合はこの型で」と少人数授業を取り入れる価値を大切にした単元構成ができる。
② 学習内容や児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができるようになる。

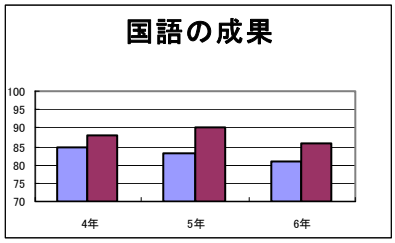
（２） 少人数に分ける視点や方法・手順が明確になる。（５種類の型の①と⑤の例）

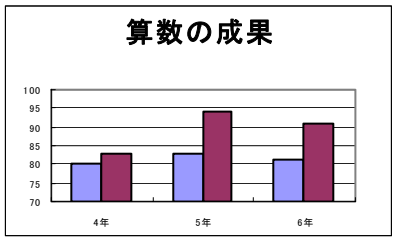


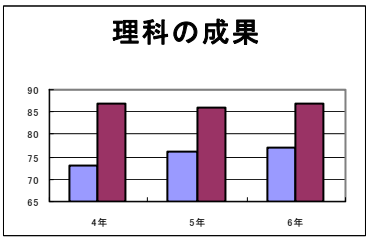


① 教科や学習内容に応じたグループ分けの方法や手順が明確になり，スムーズにグループ分けができるようになる。
② 方法や手順を工夫するに伴って，児童は自分にあったグループを選択する力がつき，学習意欲に高まりが見られた。

（３） 基礎的・基本的な内容の定着がみられる。　（本校平均）
① 学習状況調査の結果　（県　平均）







全学年・全教科県平均を上回る。県版の２学期テスト平均では，３年生以上の国語・算数ともに８５～９０点である。このことにより，基礎的な学力の定着が進んでいると考えられる。

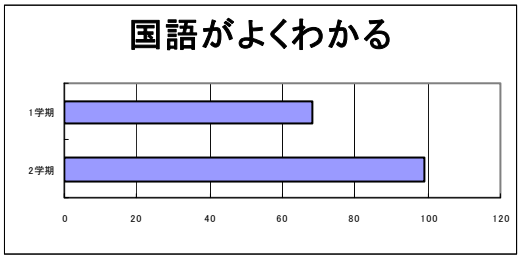
②「ぐんぐんテスト」の結果

毎月１回教師の自作による漢字・計算を中心に必要な知識や技能の定着度を確認しているが，どの学年も１０～２０％の向上が見られる。

（４）興味・関心意欲の高まりがみられる。

国語において「よく分かった」と答えた全校児童が右図のように１学期と２学期を比べると６８人から９９人へと増えた。

また，「国語が好きなった」「勉強の仕方がよく分かるので楽しい」「発表がたくさんできるので，少人数授業がすき」という児童も増えてきている。



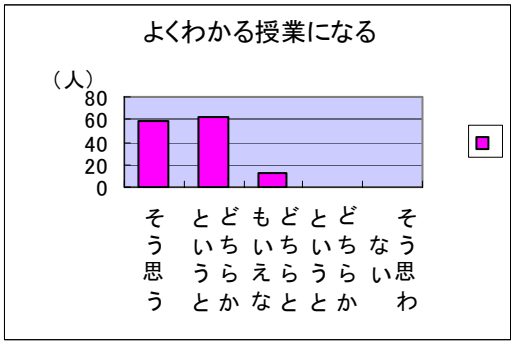
（５）少人数授業の取り組みについて保護者・学校評議員の理解が高まる。

保護者や学校評議員に少人数授業の参観をしていただき，取り組みに対するアンケートを依頼する。

「子ども達は，真剣に授業に取り組んでいましたか。」という項目では，保護者からは９１％の支持，学校評議員からは100％の支持を得ることができた。

また，右図のように「少人数授業は，よい学習方法である。」という項目でも，だいたいの賛同を得る。

職員においては，少人数授業の日々の取り組みが充実し，授業公開では，他校に新しく学習のパターンの提案ができ好評を得る。



2　今後の課題

（１）基礎的・基本的な内容の定着について

①　学習状況調査の点数の維持ならびに各教科の平均点の向上を図ると共に，個別指導を必要とする児童への支援を強化する。

②　各学年における主要三教科において習熟度別少人数授業を実施し，学び方や実態に合わせたきめ細かな支援を行い，特に各クラス下位の２～３名の者の理解度を向上させる。

また，発展学習での課題を，ワークシート等を工夫し，ぐんぐんタイムや放課後の学習，家庭学習へとつなぐことにより学びの習慣化を図る。

（２）興味・関心意欲の変容について

①　習熟度別少人数授業のさらなる充実により，児童が「楽しい・分かる」と答えるように授業改善を進める。学び方や学習過程をパターン化することにより，次に何をすればよいか見通しをもって学習できるようにし，主体的な学びに取り組む児童を育てる。

②　様々な自己評価を工夫し児童の心の変容や関心・意欲等を細やかに把握し実態に即した支援をおこなう。

③　保護者からの評価が，さらに良くなるように努め，全員の信頼を得ることができる授業を目ざす。

（３）教員や保護者の意識の変容について

①　個に応じた指導の充実を図るとともに，児童や教員相互が共に学びあう充実した少人数授業を工夫し実践する。

②　教師サイドだけでなく，児童も多様な学習を学校の中だけに留めず外部に向けて発信する活動を深め，保護者や地域の人たちの更なる理解と協力を得ると共に社会性やコミュニケーション能力を高める。

③　十分に話し合う時間や場を工夫し，反省を実践に生かすことにより，教師間の意識の格差をなくし結果が出せる教育活動を教師一人一人が行う。

Ⅳ　学力等把握のための学校の取り組み

- 標準学力テストの実施（年１回）
- 県の学習状況調査（年数回）
- 県版の学期毎の単元テスト
- 毎月の本校のぐんぐんテスト（漢字・計算を中心に）
- 単元指導中、及び指導後の担任作成テスト等

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ４　月２８日　授業参観・学級ＰＴＡで，保護者に少人数授業を公開し理解を得る。
- ６　月１１日　地区協議会において本校の取り組みを発表する。
- ６　月１５日　授業参観で少人数授業を公開し，学校評議員や保護者の理解を得る。
- １０月１９日　授業参観で学校評議員や保護者に少人数授業を公開し，同時にアンケートを実施する。結果を学校便りで公開する。
- １１月１２日　三観地区第６区の同学年研究会第３学年の研究会を本校で開き国語の方法別習熟度別の少人数授業を公開する。
- １１月２６日　三観地区の小学校・中学校・幼稚園に向けて授業公開をする。３年生が国語の方法別・習熟度別の少人数授業に取り組み好評を得る。
- １２月２６日　地区協議会において本校の取り組みを発表する。
- １　月２７日　三観地区の小学校・中学校・幼稚園にむけて授業公開をする。２年生が国語の発展的習熟度別少人数授業に取り組み好評を得る。
- ２　月　４日　授業参観で学校評議員や保護者に少人数授業を公開し，同時にアンケートを実施する。２学期と比べ結果を学校便りで公開する。
- ２　月２０日　三観地区教頭会において本年度の取り組みを発表する。
- ６月にＨＰ更新（http://www.sc.town.takuma.kagawa.jp）

==========

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　■ Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□　その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　■理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無